筑波大学「社会的価値創造債」インパクトレポート2026
（サステナビリティボンドレポート）

2026年10月



2024年9月

筑波大学「社会的価値創造債」の概要（2022.10.19発行）

債券発行の目的

筑波大学Vision2030を基本コンセプトとして新たな社会的価値の創造に向け、高等教育機関の使命である**「人材育成力」や「研究開発力」のさらなるブラッシュアップ**はもとより、**新たな社会的価値の創造に資する「人」や「知」の社会実装を実現**する必要があります。また、カーボンニュートラルやSDGsの実現を目指して社会変革が進む中において、**本学は社会とともに新たな社会的価値に根ざした未来社会を創造するため、「筑波大学社会的価値創造債」を発行しました。**

充当事業

●筑波大学 「社会的価値創造事業」

① IMAGINE THE FUTURE. Forum事業

② SPORT COMPLEX FOR TOMORROW事業

③ 未来社会デザイン棟

償還計画

新たな投資対象事業収入を含む大学全体の業務上の余裕金（土地・建物の有効活用による雑収入、資産運用による収入など）により償還します。

項　目	概　要
債券の名称	第１回国立大学法人筑波大学債券 （サステナビリティボンド、愛称　筑波大学「社会的価値創造債」）
債券の総額	金200億円
利　率	年１．６１９％
償還の方法及び期限	2062年（令和44年）　3月17日　満期一括償還（40年債）
払込期日（発行日）	2022年（令和　4年）10月19日
格　付	AAA　（JCR）AA＋（R&I）
第三者評価機関	株式会社格付投資情報センター（R&I）
サスティナビリティボンド・フレームワーク評価	フレームワークに定める「調達資金の使途」「プロジェクトの評価と選定のプロセス」「調達資金の管理」「レポーティング」が下記の原則・ガイドラインに適合している旨のセカンドオピニオンを取得しています。 ○国際資本市場協会 「グリーンボンド原則（GBP）」 「ソーシャルボンド原則（SBP）」 「サスティナビリティボンド・ガイドライン（SBG)」 ○環境省 「グリーンボンド及びサスティナビリティ・リンク・ボンドガイドライン」 ○金融庁 「ソーシャルボンドガイドライン」

筑波大学Vision 2030（全体像）（2022年4月公表）

筑波大学スローガン “IMAGINE THE FUTURE.”
～ 最も未来志向の大学を目指す ～

IMAGINE THE FUTURE.

大学改革の先導者である筑波大学
改革者は改革をやめず、開拓者は開拓をやめません。常に、開かれてあること。みずからの改革をつづけ、時代の矢印となること。

不断の改革　不断の挑戦

2020年10月 指定国立大学としての構想
～ 地球規模課題を解決する「真の総合大学」へ（Beyond the Borders.）～

戦略目標
1. 学問分野の壁を超える研究力強化
2. 国境や組織の壁を超える人材育成
3. 地球規模課題の解決に資する研究成果の社会実装

課題認識
格差や分断が存在する予測不能な時代

社会問題への対応
大学としての使命

2030年に向けて新たなビジョンを策定
さらなる改革を加速

- 教育を通して社会に貢献する人材を育成
- 社会改革に繋がる新しい価値を創造
- 教育や研究への投資の拡大を可能とする財務基盤の強化と自立化

筑波大学Vision 2030
～ GLOBAL TRUSTの創出へ ～



「研究」「教育」「社会との共創」＋「開かれた大学」
4つのVisionを互いに交差させる形で
重点戦略とアクションプランを策定

たゆまぬ挑戦

筑波大学は、あるべき未来を構想し、その実現にチャレンジ

- スーパーシティ型国家戦略特区に指定されている筑波研究学園都市を活用しつつ、持続可能な社会の共創と地球規模課題の解決につながる研究成果の社会実装を推進します。
- あらゆる意味において開かれた大学として、すべてのステークホルダーとともに夢を実現していく、開放性と透明性を高めた自立的大学経営を推進します。

※GLOBAL TRUST：個人と個人、個人と社会（あるいは組織など）だけでなく、社会と社会（あるいは組織と組織、国と国など）まで含めた信頼関係。

筑波大学Vision 2030 “4つのVision”①

1．開かれた大学 Vision

◆ あらゆる意味において開かれた大学として、夢を実現していく、開放性と透明性を高めた自立的大学経営を推進。

2．教育 Vision

◆ 学問を幅広く修めることを通して、ものごとの本質を理解し多角的にとらえる基礎的な力を培う。
◆ 自由で何度でも挑戦できる環境の中で、多様な価値観をもつ他者とともに、倫理観をもって、ひたむきに課題解決の最善策の模索と実践ができる人材を育成。

重点戦略とアクションプラン

重点戦略-1 “GLOBAL TRUST”を創出する自立的大学経営の確立

- 1.1 財源多様化による財務基盤強化
- 1.2 コンプライアンスの強化
- 1.3 アジャイル・ガバナンスの推進

重点戦略-2 エンゲージメントの強化による筑波大学FANの拡大

- 2.1 ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン社会を牽引するエンパワーメント環境の構築
- 2.2 社会やコミュニティとの連携の強化
- 2.3 筑波研究学園都市の有機的連携による活性化

重点戦略-3 デジタル社会を前提とした次世代型大学の構築

- 3.1 情報の循環と共有を加速するデジタルキャンパスの推進
- 3.2 業務環境の再構築による新たな価値の創出

重点戦略-4 Next VUCAの時代に活躍する学生の人間力を延ばす教育の展開

- 4.1 デザイン思考に基づく、全学的チュートリアル教育の実践
- 4.2 パーソナライズされた教育プログラムの提供と学習成果の可視化の活用
- 4.3 経験価値の向上を促す活動の積極的支援

重点戦略-5 自己実現と多様な社会的教育ニーズを支える教育・研究活動の新展開

- 5.1 自他共栄の精神をもつ問題解決実践型人材の育成の展開（学士課程）
- 5.2 創造力溢れる筑波大学ブランドの研究者・高度専門職業人の育成拡大（大学院課程）
- 5.3 社会人の学び直しをはじめとする生涯学習に寄り添う教育の展開

重点戦略-6 国際的互換性を持つ教育システムの世界展開

- 6.1 国境を越えて学生が集う教育プログラムの開発
- 6.2 Tsukuba Education Systemの海外展開
- 6.3 高大接続の新機軸の創出

■超大型国際産学共同研究の獲得

- 筑波大学、ワシントン大学、NVIDIA社、Amazon社によるAI分野における国際産学連携の枠組み
- 2024年4月、2大学、2社が米国商務省（ワシントンDC）で調印式を実施
- Amazon社とNVIDIA社からの支援 総額 約**７５億円**規模／10年間
- 2025年7月から4分野（健康長寿・ロボティクス・ステナビリティ・信頼できるAI）において、6課題の研究を開始
- 2026年5月までに2名の学生をそれぞれ約3か月に渡りワシントン大学に派遣



ワシントンDCでの調印式



2025年4月
東京キャンパスでのキックオフセレモニー

■全国高校生調査 大学人気ランキング

JSコーポレーションが、全国の高校生を対象に、「興味のある大学」についてアンケート調査を実施したものです。

集計期間：2024年4月～2026年8月
対　　象：高校生
回答総数：122,601人（全国合計）

国立大学 第２位

順位	大学名
1	東京大学
2	筑波大学
3	京都大学
4	大阪大学
5	九州大学
6	東北大学

筑波大学Vision 2030 “4つのVision”②

3．研究 Vision

- 高い専門性と広い視野を持つ研究者が分野をこえて協働し、個人の興味関心に根ざした自由な発想のもと、情熱をもって真摯に真理を探究。
- 伝統的な学問分野の研究を推進するとともに独創性のある研究分野を開拓。

4．社会との共創 Vision

- 未来社会を創造する知的原動力としての機能を強化。
- TSUKUBAの地から世界と連携し、潜在する地球規模の課題の同定に粘り強く挑む。
- 課題解決につながる研究成果の社会実装を推進し、未来社会の共創に貢献。

重点戦略とアクションプラン

重点戦略-7　知的好奇心をくすぐる原理探求研究の推進

- 7.1　人の根源や人と人の関係性の理解に迫る研究の推進
- 7.2　未来を創るテクノロジーの基盤研究の加速化
- 7.3　中長期的な視野に立った研究を支援する研究環境の推進

重点戦略-8　学際的研究の推進による学術分野の創生

- 8.1　知の交差点の形成と拡充
- 8.2　新しい学術分野の創出を促す研究環境の構築
- 8.3　新たな研究学園都市モデルの構築

重点戦略-9　若い才能を開花させる知の創造環境基盤の整備・充実

- 9.1　若手研究者を取り込む研究フィールドの整備・拡充
- 9.2　海外武者修行などの若手研究者育成プログラムの拡充

教員数あたりのベンチャー企業数		学生数あたりのベンチャー企業数	
指定国立大学法人	1位	指定国立大学法人	3位
RU11	2位	RU11	3位

教員数、学生数：大学改革支援・学位授与機構「大学基本調査」より

RU11
北海道大学、東北大学、筑波大学、東京大学、早稲田大学、慶應義塾大学、東京工業大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、九州大学

■大学別大学発ベンチャー企業数　第5位　（2026年6月公表）

順位	大学名	2024年度	2025年度
1	東京大学	468	595
2	京都大学	422	503
3	慶應義塾大学	377	473
4	大阪大学	298	342
5	筑波大学	264	301
6	名古屋大学	153	267
7	東北大学	222	260

出典：経済産業省「令和7年度大学発ベンチャー実態等調査」

重点戦略-10　戦略的産学官金連携による未来社会共創への挑戦

- 10.1　社会との共創プラットフォームの確立
- 10.2　組織対組織による大型共同研究を核とした連携の強化
- 10.3　ニーズドリブン型研究の推進

重点戦略-11　筑波大学ベンチャーエコシステムの強化

- 11.1　次世代アントレプレナーシップ教育の拡充
- 11.2　筑波大学発ベンチャー（スタートアップ）創出の加速
- 11.3　ベンチャーエコシステムの活性化

重点戦略-12　研究成果の社会への実装による未来社会共創の加速

- 12.1　SDGsやカーボンニュートラルへの貢献の加速と社会共創型研究の推進
- 12.2　高度医療技術の開発を通じた最先端医療の社会還元の促進
- 12.3　子会社を通じた社会貢献の推進

■2026年アルバート・ラスカー基礎医学研究賞を受賞
国際統合睡眠医科学研究機構　柳沢 正史機構長

2026年9月9日（水）、ラスカー財団（米国）は、2026年アルバート・ラスカー基礎医学研究賞を、本学の柳沢 正史（やなぎさわ まさし）国際統合睡眠医科学研究機構長/教授および米国スタンフォード大学のEmmanuel Mignot教授に授与することを発表しました。今回の受賞は、「覚醒維持を促す神経ペプチド・オレキシンの発見と、オレキシンの欠乏により過眠症・ナルコレプシーが発病することの解明 ー 睡眠の本質的理解への飛躍的な進歩」が評価されたものです。



SDGsの実現に向けた取組

DESIGN THE FUTURE機構

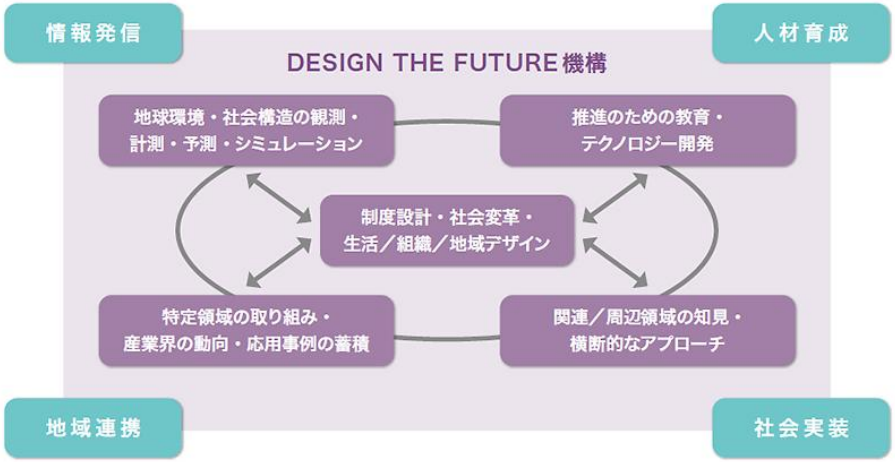
本機構は、現在および未来社会がかかえる地球規模課題解決のために、**国連が設定した持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）やそれに継ぐBeyond SDGsに対し、本学がどのように貢献できるかを探索し、人と地球の健全な未来の構築を目指す**ことを目的に2022年4月に設置しました。

具体的には、地球環境や社会構造に関する計測やシミュレーション、解決に資する学術・研究・技術開発の他、制度設計、生活・組織・地域デザインなど、**総合大学である筑波大学のさまざまな知を、地域連携や社会実装、教育や人材育成の形で社会に提供**していきます。

DESIGN THE FUTURE機構ウェブサイト
https://www.osi.tsukuba.ac.jp/sdgs/



西尾　チヅル
DESIGN THE FUTURE機構長



SDGsへ向けた取組例

① エンブリオ・プログラム



本プログラムでは、筑波大学学群生3年次以下のメンバーで構成される研究チームが実施する、現在および未来社会が抱える社会課題や地球規模課題の解決に貢献しうる自主的で独創的な研究活動に対し、その活動費用を支援します。

2024年度は、3チームの研究課題が採択され、いずれも精力的な調査や研究活動が実施されました。まだ研究室に所属していない学群生にも革新的なアイデアを芽吹かせるための挑戦の場となるよう、さらなる充実を図り、より良い未来社会の実現にもつながるよう今後も取り組みます。

■2024年度採択課題
① 世界ジオパーク隠岐の生物多様性とその活用・保全基盤の構築
② 宝篋山生物調査プロジェクト
③ 作物応用に適したルビスコの創出に向けたタンパク質言語モデルの構築

② CO_2削減プロジェクト～学食メニューから温暖化問題を考える～

本プロジェクトでは、筑波大学のCO_2削減に向けた取り組みの一環として、大学構内にある学生食堂のメニューのカーボンフットプリント(CFP)を計算し、地球温暖化への負荷の「見える化」を試みます。私たちの食べ物は、原材料の調達、製造から廃棄に至る過程で多くのCO_2を排出していますが、その事実はあまり知られていません。食事が提供されるまでの環境負荷についての意識を高めることで、学食利用者が自分の健康だけではなく、環境にも配慮したライフスタイルについて考え、実行するきっかけ作りを狙いとしています。

2024年度は１A食堂と医学食堂を対象に、実施期間も1か月に拡大して実施しました。CFPの表示方法等も学生が考え、ポスター表示しました。



資金の充当状況

筑波大学「社会的価値創造債」により調達した資金は、以下のプロジェクトに充当する予定です。

1 IMAGINE THE FUTURE. Forum事業の概要（2027年度竣工予定）

社会課題の積極的な解決に向け、企業のR＆A研究所等が利用可能な真のニーズドリブン型産学共同研究を推進し、社会変革にも繋がる共創的イノベーションの創出を図る等、本学に蓄積されたインテリジェンスやネットワーク、人材等のリソースやバリューの社会的価値への転換を目指し、新たな社会的価値の創造に取り組むための大型 共同研究施設を整備します。



（イメージパース）

2 SPORT COMPLEX FOR TOMORROW事業の概要（2026年度竣工予定）

Tsukuba Sport Village（スポーツ複合施設）にて、**本学が有する世界最先端のスポーツ科学や、障がい者スポーツの知見等を活用**し、国内外のアスリートやスポーツ医科学研究者に対して実践的な競技力強化や研究等の機会を提供するとともに、**共生社会の実現**に向けた機会の創出や、障がい者を含む体育スポーツ分野に おける実践的な研究拠点の構築、世界最先端の研究成果の社会実装を目指し、**スポーツによる先端的な教育研究成果を活用した社会的課題の解決などを目的とした施設をを整備**します。



（イメージパース）

3 未来社会デザイン棟の概要（2025年度竣工）

本学が目指す**「地球規模課題を解決し、未来を創り出す人材」を育成し、開学理念の「開かれた大学」の更なる発展**を目指し、学生×地域×企業がつながる共創拠点として活用するほか、学生が新たな発想を生み出し、学生文化の発信及び地域社会との交流を促進させる、学生が主体となって運営管理を行う施設を整備しました。





プロジェクト名	1. IMAGINE THE FUTURE. Forum	2. SPORT COMPLEX FOR TOMORROW	3. 未来社会デザイン棟	充 当 額
充当予定金額（割合）	153億円（76.5%）	38.5億円（19.25%）	8.5億円（4.25%）	200億円（未充当額 0円）

※実際に支出するまでは、現金または現金同等物等の安全性及び流動性の高い資産により管理・運用します。
※各事業の充当金額は200億円の内訳であり、事業費の総額ではありません。

プロジェクト名

IMAGINE THE FUTURE. Forum事業

施設概要

筑波研究学園都市に立地する優位性を最大限に活用し、**大型共同研究推進施設を建設**します。施設には、**企業のR＆D研究所を誘致してBusiness to Academia研究所（B2A研究所）を設置できる研究スロットを整備**し、その隣に**大規模実証実験施設（POCスペース）を建設する予定です。**

○研究スロット・・・・企業のR＆D研究所を誘致し、B2A研究所を設置
○POCスペース・・・社会課題解決のための大規模実証実験施設

【建設イメージパース】





研究スロット専用部イメージ図

スケジュール（予定）

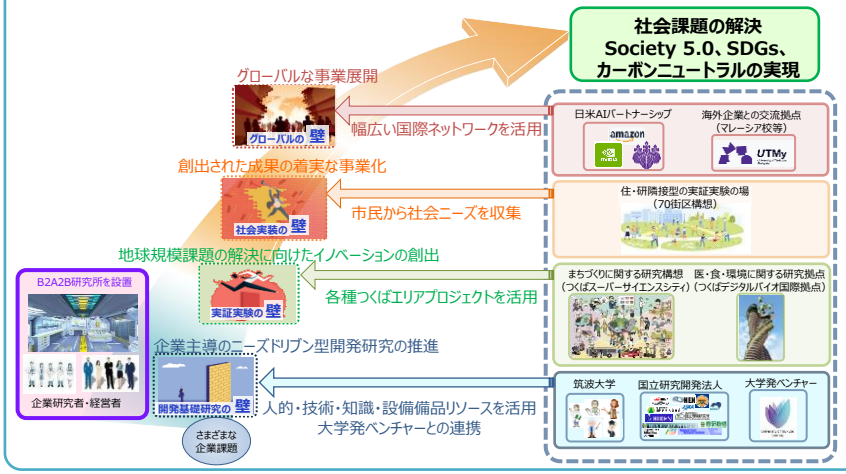
～2023年度	基本計画の学内審議・決定等
～2024年度	設計発注・設計期間
～2025年度	設計期間・施工発注、施工期間
～2027年度	施工期間、竣工
2028年度～	施設運用

※現在進行部分は赤文字、今後着手予定部分は黒文字で記載

基本方針

- 本学のリソースと学際的研究力を活用した社会と大学の協働による**ニーズドリブン型開発研究と実証実験を推進**します。
- **地球規模課題の解決に資する研究成果を社会実装**します。
- 新たな社会的価値を生み出し、社会変革に繋がる**イノベーションと経済効果を創出**します。

ITF.F：企業が様々な課題（壁）を乗り越え、飛躍的事業成長を実現するための場



ソーシャルプロジェクト（事業開始後に開示予定）

1 アウトプット

- IMAGINE THE FUTURE. Forum において整備した施設 【2027年度竣工予定】
- ソーシャルプロジェクトにおける研究に関与する研究者・学生数

2 アウトカム

- ソーシャルプロジェクトに関する論文数　例）研究力の向上（産学共著論文数）
- 社会課題の解決事例　例）共同研究成果の社会実装（社会貢献）

3 インパクト

- 社会とともに新たな社会的価値に根ざした未来社会の創造
- 新たな社会的価値を生み出し、社会変革に繋がる共創的イノベーションと経済効果の創出
- ベンチャーエコシステムの実現
- 未来社会をデザインできる次世代人材の育成

グリーンプロジェクト

- 建設する IMAGINE THE FUTURE. Forum はBELS３つ星以上、2025.10.1 環境認証取得

プロジェクト名

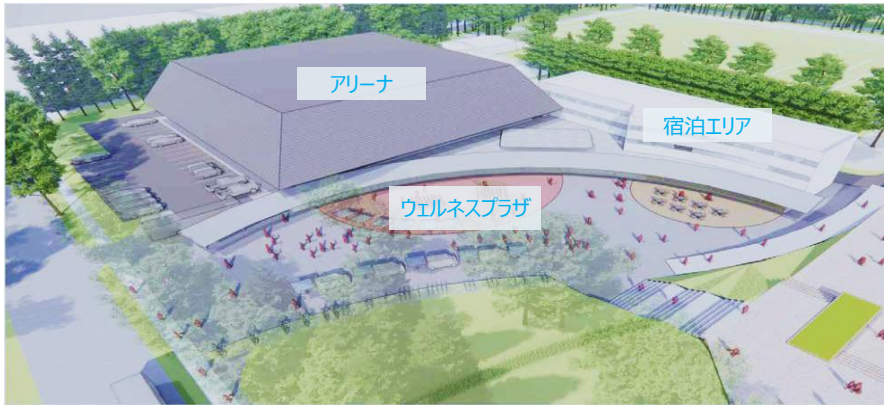
Sport Complex for Tomorrow事業

施設概要

本学の体育スポーツ分野における優位性をさらに拡大し、パラスポーツの推進のみならず、**教育・研究・社会貢献に関わる全方位のプレゼンスを高めるための Tsukuba Sport Village(スポーツ複合施設)を建設**します。

○アリーナ・・・・・ディバイダーの活用により、パラスポーツを含む様々な競技を同時に行うことができる大空間
○宿泊棟・・・・・トップアスリートや学生合宿などの需要に対応した施設
○アスリート食堂、ミーティングルーム　など

【建設イメージパース】





アリーナイメージ（パラスポーツなどの活動を含む）

スケジュール（予定）

～2023年度	基本計画の学内審議・決定等 設計発注
～2024年度	設計期間・施工発注
～2025年度	設計期間
2026年度～	施工期間、竣工・施設運用

※現在進行部分は赤文字、今後着手予定部分は黒文字で記載

基本方針

■障がい者を含むすべての人々がスポーツに親しみ、**Well-beingを向上させるための研究開発を推進**します。
・インクルーシブ教育プログラムの開発と効果検証
・スポーツ政策研究の推進

■スポーツ科学を基礎にした**ヒューマン・ハイ・パフォーマンスを実現**します。
・最先端の研究成果に基づくトレーニングメソッドの提供と効果検証
・本学指導者によるセミナーや指導者講習会の開催

■**「スポーツの力」を活用**した人材育成と社会貢献を行います。
・学生、教職員、地域住民の交流促進と地域活性化
・学校部活動の地域移行等の社会課題解決への貢献

ソーシャルプロジェクト（事業開始後に開示予定）

1 アウトプット

- Sport Complex for Tomorrow　において整備した施設 【2026年度竣工予定】
- ソーシャルプロジェクトにおける研究に関与する研究者・学生数

2 アウトカム

- 社会課題の解決事例
- スポーツ医科学の知見等を活用したスポーツ環境の提供による障がい者を含むスポーツ人口の拡大

例）・小中学生、障がい者、高齢者を対象とした各種スポーツ・運動教室等のスクール事業によるスポーツ人口の拡大
・指導者養成や指導力向上のプログラム、シニアを中心とした地域住民向けの運動啓発・健康増進イベント事業による社会福祉の推進

3 インパクト

- 超高齢社会に向けた健康で豊かな生活の構築
- スポーツを通じたインクルーシブ教育による国際平和と共生社会の実現

グリーンプロジェクト

- Sport Complex for TomorrowはZEB Ready(アリーナ部)【2024.11.29認証取得】

プロジェクト名

未来社会デザイン棟

《開所式》

学生が中心となって運営する新たな共創拠点として、学生×地域×企業がつながる施設「未来社会デザイン棟」**開所式を令和８年５月３０日に開催**し、開所式典後は引き続き各種スペースを利用して事業推進チーム主催のオープニングイベントを開催した。

《 施設概要 》

(1) 所在地　つくば市天久保2丁目1-1
(2) 階層・構造　鉄骨造 3 階建て
(3) 延床面積　5,270㎡
（４）主な諸室
①大階段（だいかいだん）、 ②会議室（１０室）
③シェアオフィス、④クリエーションスペース 、⑤オープンスペース
⑥イベントホール、 ⑦フィットネススペース、⑧スタッフスペース
⑨共同研究スペース

《主な活動内容 》

最大300人収容するイベントホールでは、発表会や企業のイベント、フリーマーケットなど多用途で利用できます。その他の各種スペースでも学内外を問わずイベントの開催が可能となっており、**正課授業や課外活動、コンサートなど多数のイベントが開催**されています。また、つくば市民とともにサッカーワールドカップのパブリックビューイングを実施するなど、**地域との交流拠点**としても活用されています。また、企業が入居できるシェアオフィスや共同研究スペースを設け、学生にとっては、企業の担当者と直接コミュニケーションを取りながら、学生自身の研究や将来のキャリアについて考えるヒントを得られ、企業側にとっても、若い世代の柔軟な発想や価値観に触れ、新しい事業や研究に反映することができる空間となります。**シェアオフィスや会議室など、これまでにない大学内外の人々が協働できる新たなハブ施設となることを目指しています。**

（令和8年5月30日）



ソーシャルプロジェクト

1 アウトプット

- 未来社会デザイン棟を整備
  竣工時期：2026年２月
  運営時期：2026年３月

2 アウトカム

- 未来社会デザイン棟の利用者数
- 各種スペースにおける正課利用等の学内利用件数
- 各種スペースにおけるイベント実施件数
- シェアオフィスに関与する企業数
- 共同研究スペースに関与する企業数

各指標は次回に開示予定

3 インパクト

- 自ら課題を定め、分野や方法論の壁を越えて課題解決に向けて思考できる人材を育成し、社会へ還元
- 地球規模課題の解決に挑む強いマインドを持ってイノベーションを起こすことができる人材を育成し、社会へ還元
- 学生同士のコミュニケーション促進により人間形成の礎を構築
- 地域との交流や企業との連携促進により社会性・主体性を養成

グリーンプロジェクト

- 未来社会デザイン棟はZEB Ready【2025.3.17認証取得】

参考：サステナビリティボンド・フレームワーク（2022年8月公表）

1 調達資金の使途

◎ソーシャルプロジェクト

■事業区分：必要不可欠なサービスへのアクセス（教育）

・法人法施行令第八条第四号（国立大学又は大学共同利用機関における先端的な教育研究の用に供するために行う土地の取得等）に該当する事業

・本学が中長期的な戦略として実施する「筑波大学社会的価値創造事業」

◎グリーンプロジェクト

■事業区分：再生可能エネルギー、エネルギー効率、グリーンビルディング

・法人法施行令第八条第四号（国立大学又は大学共同利用機関における先端的な教育研究の用に供するために行う土地の取得等）に該当する事業

・本学が中長期的な戦略として実施する「筑波大学社会的価値創造事業」であり、「ZEB 認証におけるZEB、Nearly ZEB、ZEB ReadyZEB Oriented」等の環境認証を取得ないしは取得予定の事業

2 プロジェクトの評価と選定のプロセス

・本フレームワークに基づき調達する資金を充当するプロジェクトは、「筑波大学Vision2030」により本学が社会とともに新たな社会的価値に根ざした未来社会を創造するために取り組む内容等であることを、経営協議会で審議し、役員会で最終決定しています。

・プロジェクトの適格性の判断の際は、対象とするプロジェクトが環境・社会的リスク低減のためにプロジェクトを実施する自治体における環境関連法令等を遵守し、安全管理等の実施を確認します。必要に応じて、環境への影響調査、周辺住民への十分な説明や労働者の安全管理等を実施していることを確認します。

3 調達資金の管理

・本フレームワークに基づき調達した資金は、本学の財務会計システムにより入出金管理を行います。

・本フレームワークに基づく債券による資金充当状況に係る帳簿は、財務会計システムにより記録した上で、償還まで保管します。

・プロジェクトの運用開始時期等の変更により未充当期間が発生した場合には、現金又は現金同等物、短期金融資産等の安全性及び流動性の高い資産により・管理・運用します。

4 レポーティング

◎資金充当状況レポーティング

本学は、プロジェクトに調達資金の全額が充当されるまでの間、毎年度、充当状況を本学ウェブサイトまたは事業報告書等により報告することとし、以下の項目について、実務上可能な範囲でレポーティングを開示します。

① プロジェクトの概要
② プロジェクト別の充当額
③ 未充当額

◎インパクト・レポーティング

サステナビリティボンドの発行残高がある限り、年次で、プロジェクトによる環境・社会への効果を本学ウェブサイトまたは事業報告書等により報告することとし、以下の項目について、実務上可能な範囲でレポーティングを開示します。

■ソーシャルプロジェクト

◆アウトプット

・対象となるプロジェクトにおいて整備した施設の概要等
・ソーシャルプロジェクトにおける研究に関与する研究者・学生数

◆アウトカム

・ソーシャルプロジェクトに関する論文数
・社会課題の解決事例
・スポーツ医科学の知見等を活用したスポーツ環境の提供による障がい者を含むスポーツ人口の拡大

◆インパクト

・社会とともに新たな社会的価値に根ざした未来社会の創造
・新たな社会的価値を生み出し、社会変革に繋がる共創的イノベーションと経済効果の創出
・ベンチャーエコシステムの実現
・未来社会をデザインできる能力を有する人材育成の加速化と社会への還元
・超高齢社会に向けた健康で豊かな生活の構築
・スポーツを通じたインクルーシブ教育による国際平和と共生社会の実現

■グリーンプロジェクト

・環境認証等の取得状況
・CO2 排出量



DESIGN THE FUTURE, TOGETHER.

－ ともに拓く未来 －

国立大学法人筑波大学
事業・ファイナンス局
資産運用・ファイナンス室　藤元、杉本
電　話 ：029-853-2139
E-mail：zai.unyou@un.tsukuba.ac.jp
https://www.tsukuba.ac.jp/